

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールA(Seminar of Study A)	授業コード	P170131
担当教員名	赤星 哲也	科目ナンバリングコード	P31701
配当学年	3	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	卒業研究に着手するために必要となる基礎知識・スキルを修得する科目です。卒業研究に着手する前に必ず受講してください。		
受講心得	欠席、遅刻を含めた受講態度を評価します。		
教科書	「たのしいプログラミング PYTHONではじめよう」 オーム社 「世界標準MIT教科書 Python言語によるプログラミングイントロダクション」 近代科学社		
参考文献及び指定図書	(Web) 「Python 2.7ja1 日本語ドキュメント」 http://docs.python.jp/2/ (書籍) 「たのしいプログラミング PYTHONではじめよう」 オーム社 「世界標準MIT教科書 Python言語によるプログラミングイントロダクション」 近代科学社 「Pythonスタートブック」 技術評論社 「みんなのPython 第3版」 ソフトバンククリエイティブ (月刊誌) 「日経ソフトウェア」 ※NBU大学図書館・情報検索サービス「日経BP社記事検索サービス」を用いて閲覧可 http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/		
関連科目	卒業研究、研究ゼミナールB、プログラミング基礎		

授業の目的	卒業研究を行う上で必要となるアルゴリズムとプログラミング能力を修得する。プログラミング言語は研究室で主に使用する「Python」を対象とする。到達目標は、①教科書の内容を説明する資料の作成、②プログラミング言語の文法の理解、③アルゴリズムの理解、④アルゴリズムの内容をプログラムとして記述できることである。
授業の概要	研究室で主に使用するプログラミング言語「Python」に関する教科書を輪読しながら、プログラミング演習を行う。各学生は教科書の担当部分の予習を行い、授業時に皆の前で解説を行う。解説の内容にもとづき、各学生は自らのパソコンでプログラミング演習を行う。疑問や難解な点については、教員も交えてディスカッションを行いながら理解を深めていく。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。	教科書 発表資料の作成
第2週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。	教科書 発表資料の作成
第3週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。	教科書 発表資料の作成
第4週：教科書の輪読、プログラミング演習	

教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。		教科書 発表資料の作成
第5週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。		教科書 発表資料の作成
第6週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。		教科書 発表資料の作成
第7週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。		教科書 発表資料の作成
第8週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。		教科書 発表資料の作成
第9週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。		教科書 発表資料の作成
第10週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。		教科書 発表資料の作成
第11週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。		教科書 発表資料の作成
第12週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。		教科書 発表資料の作成
第13週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。		教科書 発表資料の作成
第14週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。		教科書 発表資料の作成
第15週：教科書の輪読、プログラミング演習 教科書を輪読しながら各自のパソコンでプログラミング演習を行う。		教科書 発表資料の作成
第16週：		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	教科書の担当割り当て部分を予習し、他の学生に説明するための資料を作成する。

【知識・理解】	プログラミング言語の文法を理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	アルゴリズムの内容をプログラムとして記述できる。
【思考・判断・創造】	アルゴリズムの内容を理解している。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点	20点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		20点		
(「人間力」について)				
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	[Sレベル]到達目標を満たしている。 [Aレベル]到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]到達目標を一部満たしている。
発表・その他 (無形成果)	欠席、遅刻を含めた受講態度を評価します。